

II 遊びを通した『まなび』と各教科等の中での『学び』をつなぐ

幼稚園では、幼児の自発的な活動としての総合的な遊びを通して『まなび』が芽生えていきます。一方、小学校では、各教科等の学習の中で『学び』が培われていきます。

こうした発達の段階に即した学びの連続性が、今後は重要な視点となってきます。幼稚園での総合的な遊びを通して芽生えた『まなび』は、小学校の各教科等の学習の基礎となる要素につながっており、遊びを通した『まなび』の要素が各教科等の学習内容にどのようにつながっていくかを互いに理解し合うことはとても大切なことです。子どもたちが学ぶ意欲を高め、学習に興味・関心をもって臨むためにも、両者の教育課程の段差を少なくしてなめらかに接続していくことが大切です。

そこで、接続期の教育課程の作成が必要となってきます。文部科学省より平成 22 年 11 月 11 日に「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」が出されました。その中に幼小接続における教育課程編成・指導計画作成上の留意点が記載されています。その一部を抜粋して 8 つの事例のあとに載せてあります。

なめらかに接続するために（例）

小学校入学当初には合
科・関連的な指導を取り
入れ、幼稚園での遊びを
生かしながら無理なく
つなげていく。



小学校において 4 5 分の学習時間
を、入学当初は例えば 1 5 分ずつに分
けて行うなど、生活のリズムに段階的
に慣れていくようにする。

8 つの事例は、幼稚園での遊びを通した『まなび』を、保育内容の 5 つの領域ごとに分析し、それが小学校の各教科等にどのようにつながっていくかを表しました。また、内容に関連する幼稚園教育要領や小学校学習指導要領についても記号で表しました。（＊）

異校種の学びの理解の参考としてください。

＊記号の表し方（次頁以降にある吹き出し内の英数字や片仮名の意味）

幼稚園教育要領
（例）健康（１）－（３）



ねらい

内容

小学校学習指導要領
（例）国語（１）－Ａ（１）ア



目標

内容

1. 幼児の遊びと各教科等の内容の援助と支援

事例① 砂遊び

●ねらい

- ・ 友達と楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫したり協力したりする。

○内容

- ・ 友達とやりとりをしながら共通の目的やイメージをもって遊ぶ。
- ・ 土や水、泥の感触を全身で感じ思いきり楽しむ。
- ・ 支度や片付けなど自分たちで場を整える。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (1)-(1)

- ・ 砂だけでなく泥水で遊ぶ体験から色や形、手触りなど、水の特性や変化の不思議さを感じている。

言葉 (1)-(2) (2)-(4) (8)

- ・ 遊びを進める中で互いに考えや思いを言葉で伝え合っている。
- ・ 自分の感情や意志を言葉で表現したり応答したりその言葉を聞いたりすることを通して言葉を獲得している。

環境 (1)-(1)

- ・ 自分の興味に沿って自由に遊ぶ楽しさや未知のものに驚いたり感動したりする経験をしている。



健康 (2)-(2) (3)-(7)

- ・ 土や砂、水遊びは開放感を感じ、身体全身を使って遊ぶ。
- ・ 楽しんで遊んだ後には片付けや着替えがある。

人間関係 (2)-(4) (7) (10)

- ・ イメージを共有しながら遊ぶ中で友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- ・ 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・ 個数の決まった共同の用具をやりとりして使う中では思いがうまく伝わらなかったり、物を取り合ったりすることでけんかになることもあるが、そのやりとりを通して相手の思いに気付いたり、相手の思いを受け止めたりすることができる。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材、教具
・ 友達と誘い合って砂場に向かう。 ・ 用具を出す。 ・ 砂遊びを楽しむ。 ・ 水を汲みに行く子や穴を掘る子など自分たちで役割を分担している。 ・ 用具を片付ける。	・ 砂遊びの楽しさや気持ちよさを味わえるように事前に必要な用具や場を整えておく。遊びを十分に楽しめるよう時間を確保する。 ・ 思いきり遊びを楽しめるように汚れてもよい服装で始める。 ・ 考えやイメージしていることを共有して遊べるようにそれぞれの子の思いが遊びの中で表現できるように手助けする。 ・ 周りの子にその子の良さや頑張りを気付かせていく。 ・ 活動の過程で幼児一人ひとりがどれだけ遊び、充実感や満足感を得ているか捉える。 ・ 片付けでは教師も一緒に動き、モデルになるようにする。 ・ 遊びの余韻を大切に次回も楽しみにできるようにする。	・ 砂場 ・ たらい ・ 水 ・ バケツやスコップなど砂場用具

各教科等との関連

図画工作

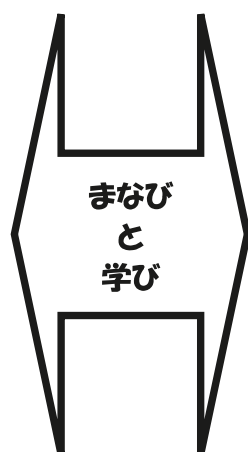
「しぜんとなかよし」(1年生)

「すきなばしょで」(1年生)

(2)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・身近な場所を使って、積んだり、描いたりする全身的な活動を楽しむ。
- ・身の回りにある材料を使って好きな形を作り出す。
- ・できつつあるものやできたものを互いに認め合う。



生活

「みんなともだち」(1年生)

「なつともだち」(1年生)

「あきともだち」(1年生)

(2)-(1)(6)

主な学習活動

- ・学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持ち、楽しく学校生活を送る。
- ・身近な自然を利用したり身近にある物を使ったりして遊びや遊びに使う物を工夫して作り、そのおもしろさや自然の不思議さに気づきみんなで遊びを楽しむ。

国語

「みんなに つたえよう」

(1年生)

(1)-A(1)ウエ

主な学習活動

- ・自分のことをはっきりした発音で話す。
- ・大事なことを注意して聞くことができる。

事例② ままごと遊び

●ねらい

- ・友達とイメージを共有し、相談したり協力したりしながら遊びを進める。

○内容

- ・それぞれの持ち味を生かし合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- ・自分のイメージや考えを言葉や文字などで伝え合う。
- ・互いに教え合いながら自分たちで問題を解決しようとする。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (2)-(5) (3)-(8)

- ・自分のイメージする役になりきり、動きや言葉で表現したり演じたりする楽しさを味わっている。
- ・身近な物を利用して、遊びに必要なものを作ったり、見立てたりしている。

環境 (2)-(7)

- ・保育室の用具や作った物を自分たちで構成しながら遊びを進めている。



人間関係 (2)-(5) (8) (10) (3)-(11) (12)

- ・ごっこ遊びは友達とのかかわりを楽しむ遊びであり、友達とのやりとりを通してかかわりを深めている。
- ・思いがうまく伝わらない体験や葛藤体験を通して相手の思いに気づき、自分の気持ちとの折り合いをつけながら遊びを進める。
- ・用具を共有して使うことで物を大切にする気持ちをもったり自分たちでルールを作り守ろうとしたりする。

言葉 (3)-(6) (10)

- ・ままごと遊びでは一日の流れを自分たちで作る出すので自然と「おはよう」「おやすみなさい」などの挨拶が頻繁にやり取りされている。例えば母親役になった子は日ごろ母親が使っている言葉を再現する。
- ・年長後半になると文字に興味をもち、文字でやり取りする楽しさも味わっている。

健康 (1)-(1) (3)-(10)

- ・使える用具を選び、好きな場所に配置することを楽しんだり好きな役になりきって友達との触れ合いを楽しんだりしている。
- ・物や用具の置き方では安全に気を付けることも学んでいる。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
・用具を自分たちの好きな場所に運ぶ。 ・ままごと遊びの中で文字や名前を書いて楽しむ。 ・自分たちで役を決めたり真似たりしながら遊ぶ。	・遊びの状況や安全面に気を配り、落ち着いてじっくり取り組めるような時間と場を確保する。 ・文字を使う喜びを味わっているが、読み書きする関心や能力は個人差が大きいため、一人ひとりに配慮して楽しめるようにする。 ・子どもたちの要求に応じて素材や用具を提案したり出したりしながら演じる楽しさを味わえるようにする。 ・それぞれの思いやイメージが共有し合っているかを把握し、必要に応じて気付かせたり考えさせたりする。	・積み木 ・ごぎ ・ままごと用具 ・段ボール ・紙 ・マーカー、クレヨン ・はさみ

各教科等との関連

国語

「よんでね きいてね」(1年生)

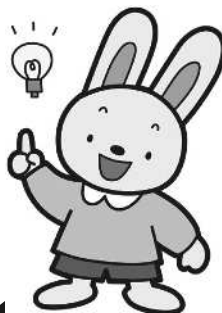
「えにっきを かこう」(1年生) (2)-B(1)アイ

「はなしたいな ききたいな」(1年生) (1)-A(1)アエ

主な学習活動

- ・自分の体験を簡単な文で書き、手紙を書くことの楽しさを感じる。
- ・休み時間にしたことを思い出し、友達に話したり全員の前で発表したりして感想を伝え合う。
- ・生活の中の出来事を絵と文で表現する。

まなび
と
学び



1年生

事例②

生活

「みんなともだち」(1年生) (2)-(1)

「はるとともだち」(1年生) (4)-(8)

「あきともだち」(1年生)

主な学習活動

- ・学校やその周りの自然、人々、施設等に関心を持ち、楽しく学校生活を送る。
- ・身近な人々、社会および自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し考える。

事例③ ドッジボール

●ねらい

- ・友達とルールを守りながら身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

○内容

- ・友達とチームを作って競い合うことで喜びや悲しみを共感し合う。
- ・思いを言葉で表現したり分からないことを尋ねたりする。
- ・友達の良さを認め合いながら遊ぶ。
- ・ルールの大切さに気づき、守ろうとする。

5領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (2)-(3)

- ・共に活動する中で、歓声を上げたり、喜びを共有したりしている。
- ・感動を相手と共有することでさらに感動が深まる。

言葉 (2)-(4)

- ・遊びを進めていく過程で自分の感情や意志を伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを自然と行っている。そうした中で言葉を獲得し、さらには言葉を交わす喜びを味わっている。

環境 (3)-(8)

- ・ドッジボールではチームを作ったり勝ち負けを外野の数で決めたりすることから数の多い、少ない、同じ等の感覚を養っている。



健康 (2)-(2)(3)

- ・年長時期になると仲間同士心を通わせながら楽しんでいる。
- ・運動遊びの中でも高度な遊びで、取ったり投げたり逃げたりと瞬時に判断して動き、身体全身を使っている。
- ・寒い日でもゲームが始まるとすぐに身体が温まり、継続して遊ぶことでより動きがダイナミックになっていく。
- ・楽しさを感じた子は進んで戸外に出て遊ぶようになる。

人間関係 (2)-(5) (3)-(11)

- ・ルールのある集団遊びは他の幼児とやりとりをしながら遊びを進めていくため、遊びを進めていく過程で試行錯誤しながらかわりを深め、喜びや悲しみを共感し合うことができる。

〈クラス活動で行うドッジボール〉

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
・園庭に帽子をかぶって集まる。 ・ルールを確認する。 ・ゲームスタート① ・勝敗確認 ・ゲームスタート② ・勝敗確認 ・終了	・活動を始める前にラインを引いておく。 ・一人ひとりの様子から活動前の参加意欲や態度を捉える。 ・これまで行ってきた転がしドッジボールとの違いについてルールを分かりやすく教える。 ・ゲームを始め、実際にやりながらルールを伝えていく。 ・子どもたちの声や様子からルールを柔軟に設定し、今の実態にあったクラスのルールを作っていく。 ・ゲームをもう一度行い、始めたときの子どもの様子との違いや参加意欲を捉える。 ・ゲームを終えてクラスに帰るまでに個々に声をかけ、次への意欲につなげていく。	・ボール ・ラインカー

各教科等との関連

体育

「ボールゲーム」「ボール投げゲーム」(1年生) (1)-E(1)ア
「ドッジボール」(2年生) (1)-E(1)7, (1)-E(3)

主な学習活動

- ・ボールを転がしたり、投げたりするドッジボール。
- ・運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりする。
- ・簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりする。

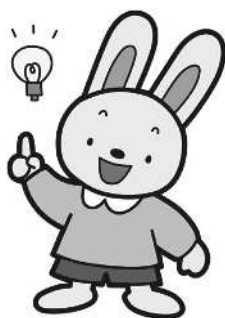
算数

「かずとすうじ」(1年生)
(1)-A(1)イ

主な学習活動

- ・10までの数の読み方、書き方、数の系列、大小を理解する。

まなび
と
学び



1年生

道徳

「のこされたボール」(1年生) 2-(3) 4-(1)

主な学習活動

- ・約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする。

事例④ 運動会

●ねらい

- ・ 目的に向かって友達と力を出し合い、やり遂げた満足感を味わう。

○内容

- ・ 友達と相談したり思いを伝え合ったりすることを通して相手の気持ちを考える。
- ・ 仲間と協力してやり遂げる達成感を味わう。
- ・ 十分に身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (2)-(4) (3)-(8)

- ・ 運動会のダンスは保護者に見てもらいたい気持ちからいっそう表現したい気持ちを持ち、身体全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わっている。

言葉 (2)-(3) (4)

- ・ たくさんの種目を体験していく過程では教師の話に注意深く聞いたり分からないことを尋ねたりすることを繰り返している。

環境 (1)-(2) (3)-(11)

- ・ 運動会の種目ならではのいろいろな遊具や用具に触れ、関心をもつ。
- ・ 園によっては国旗に親しむ機会にもなっている。



健康 (2)-(2) (3) (3)-(10)

- ・ 戸外で十分に体を動かし触れ合う運動会の遊びは単に体を動かして遊ぶ楽しさだけではなく自分の体に関心をもつことや安全に気を付けて動くことなど様々なことを知る機会にもなる。

人間関係 (2)-(5) (7)

- ・ 競い合ったり力を合わせたりする体験を通してかかわりを深め、喜びや悲しみを共感し合うことができる。
- ・ 少し難しいことや苦手なことも友達と一緒に遊びたい気持ちが勝ることで挑戦する意欲につながっていく。

〈みんなでダンス～玉入れ〉

活動の流れ	環境・教師の援助	教材・教具
・ クラス合同でダンスを始める。 ・ 縦割りチームの玉入れをする。 ・ 作戦タイムを設ける。 ・ 振り返り。 ・ 自ら遊ぶ活動へ	・ 活動前にトイレや衣服の調節、靴をきちんと履いているかを確認する。 ・ できるだけ運動会当日と同じ流れで行い不安を少なくする。 ・ 個々の活動への取り組みの様子を捉える。 ・ 普段の遊びの中でも異年齢のかかわりが生まれやすいようにそばにいる異年齢児のよさや名前を気付かせていく。 ・ 幼児同士意見を伝え合える時間を作り、意欲を高める。 ・ 運動会への意欲が高まるよう頑張りを認めたり励ましたりしていく。 ・ 自ら遊ぶ活動の中でも運動会種目の競技が遊びとして行えるよう用具や場を整えておく。	・ 音響 ・ 玉入れ用（ポール、紅白玉）

各教科等との関連

音楽

「みんなであわせて」(1年生)
「うたとともだち」(1年生) (2)-A(1)イ

主な学習活動

歌い方や身体表現を工夫し、友達と一緒に表現する喜びを感じる。
楽曲の気分を感じ取って聞いたり、工夫して表現したりする。
リズムによって身体表現やリズム表現を楽しむ。

体育

「リズム遊び」(1年生) (1)-F(1)イ
「走の運動遊び」(1年生) (1)-C(1)ア

主な学習活動

- ・リズムに合わせてみんなで楽しく踊る。
- ・距離や方向などを決めて走ったり、手でのタッチやバトンをパスする。

特別活動

学校行事
「健康安全・体育的行事」1-(3)

主な学習活動

- ・心身の健全な発達や健康の増進などについての関心を高め、安全な行動や規律のある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。

算数

「10よりおおきなかず」(1年生)
(1)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・20までの数について構成と読み方書き方を理解する。
- ・20までの数の系列、大小関係を理解する。



まなび
と
学び

事例⑤ 飼育栽培活動

- ねらい・身近な小動物に親しみをもって接し、触れ合う中で、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。
- 内容
 - ・園庭の畑で友達と一緒に虫を探し、捕まえてきた虫に触れたり、図鑑や絵本などで調べたりしながら、友達と伝え合ったりする。
 - ・生き物や自然に触れ、発見や感動をする機会を作る。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

健康 (2)-(2) (3)-(10)

- ・土の感触を味わい、昆虫の発見などで夢中になり、実体験の中で体を動かす。
- ・危険な場所が分かり、用具を安全に使う。

環境 (1)-(1) (5) (3)-(8)

- ・土や昆虫など、自然とのかかわる中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。
- ・自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ・環境を通して、数量や大きさなどに関心をもつ。

人間関係 (2)-(1) (3)-(9)

- ・友達と一緒に活動する楽しさや友達の良いところ、悪いところを知ること、新しい人間関係ができる。



言葉 (1)-(4) (2)-(8)

- ・友達や先生に自分の感情や意思を伝え、相手の考えを聞き、応答ができる。また言葉を聞くことを通して言葉を獲得する。
- ・友達や先生とのかかわる経験を通して、イメージや言葉を豊かにする。

表現 (2)-(3)

- ・自然と触れ合う中で感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

活動の流れ	環境・教師の援助	教材
・小学生が来園する。 ・今日の芋ほりの苗植えの確認をする。 ・畑に苗植えをする。	・畑の手入れをする前に安全チェックをしておく。 ・サツマイモの苗など野菜は身近なもので育ちやすい物を用意する。 ・小学生とのかかわりをもてるように教師が仲立ちをしながら活動が進められるようにする。 ・実体験を通して思ったこと感じたことを言葉で表現し、共感する。	・シャベル ・バケツ ・観察ケース ・空き箱 ・昆虫図鑑 ・絵本

各教科等との関連

国語 「しらせたいな、見せたいな」(1年生)(1)-A(1)に

主な学習活動

- ・学校を探検して、そこにいる人に挨拶をし、知りたいことを尋ねる。
- ・探検して知らせたいことを選び、友だちに分かるように話す。
- ・友だちの大事なことを、落とさずに聞く。
- ・探検した場所の名前などを書く。
- ・質問や挨拶をするときに、丁寧な言葉で話す。

生活 「いきものだいすき」

(1年生)(2)-(7)

主な学習活動

- ・動物に触れたり餌をやったりしながら、適切にかかわる。
- ・動物の世話の仕方について話し合い、実際に世話をする活動を通して、気付いたことや感じたことなどを工夫して表現する。
- ・校庭で生き物を探したり遊んだりする。
- ・飼育したり観察したりして、発見したことを友達に知らせる。

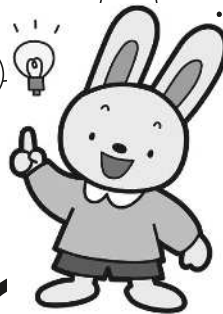
道徳 「ハムスターの赤ちゃん」(1年生)

3-(1)

主な学習活動

- ・動物の赤ちゃんについて知っていることを話し合う。
- ・資料を読み、ハムスターの赤ちゃんについて話し合う。
- ・生命誕生についての話を教師から聞く。

まなび
と
学び



1年生

図画工作

「どうぶつむらのピクニック」

(1年生) (2)-A(1)ア

主な学習活動

- ・紙の箱の形からいろいろな動物を想像する。
- ・思いついた動物を工夫してつくる。
- ・作品を見せ合う。

体育 「わくわく動物ランド」

(1年生)

(1)-F(1)ア

主な学習活動

- ・鳥や昆虫などいろいろな題材の特徴や様子を「〇〇が〇〇しているところ」のような具体的な動きで捉え、即興的に踊る。
- ・運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりする。

事例⑥ お店屋さんごっこ

- ねらい ・考えを出し合ったり、イメージを伝え合ったりしながら友達と一緒に遊びを進めていく。
- 内容 ・遊びに必要な物や場を友達と一緒に考えて準備する。
・いろいろな材料や道具を使い、より本物らしく作ることを楽しむ。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (1)-(1) (2)-(5)

- ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
かいたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

環境 (2)-(7)

- ・身近な物に親しみをもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

健康 (1)-(4)

- ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

人間関係 (2)-(8) (10)

- ・友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。
- ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。

言葉 (2)-(4) (10)

- ・人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ・日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。



活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
・美術展見学に行く。 ・好きな遊びをする。 ・ままごと遊びでケーキづくりをする。 ・工夫していろいろなケーキを作る。 ・ケーキ屋さんごっこのやり取りをする。 ・ケーキ屋さんごっこで必要なものを作る。	・幼小中合同美術展を見学に行き、小学生の立体作品を見る機会を作り、興味や関心をもてるようにする。 ・蒸しパン作りで余った紙製ケーキ型をままごとコーナーに置いておく。 ・遊びの仲間に入りながら教師もケーキを作ってみる。 ・教師もお客さんになり、やり取りを楽しむ。 ・ケーキ屋さんに必要なもの（看板、エプロン、頭に付ける物、ケーキの箱、お金等）に気付いたら、幼児と一緒にどのように作ったらよいか考えていく。	・毛糸・フェルト ・紙粘土・ホイップ粘土 ・紙製ケーキ型 ・アイロンビーズ・ケーキの箱 ・看板になる紙 ・不織布・針・糸 ・すずらんテープ ・セロテープ ・ガムテープ

各教科等との関連

国語

「おみせやさんごっこをしよう」(1年生)

(2)-B(1)アエ

主な学習活動

- ・教材文を読んで遊び方の内容を知る。
- ・売る物の良さが分かるように宣伝のチラシの文章を書く。
- ・客やお店の人の役に分かれてやり取りして、「おみせやさんごっこ」を楽しみながら物の名前の関係を知る。

体育

「ボールゲーム」(1年生)

(1)E(1)ア, E(3)

主な学習活動

- ・進んでボールゲームを楽しむ。
- ・分担して準備や片付けをする。
- ・ルールを工夫して作る。

生活

「あきのあそび」(1年生)(2)-(6)

主な学習活動

- ・落ち葉や木の実などの秋の自然で好きな物を作って遊ぶ。
- ・身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作る。
- ・遊び方を工夫しながらみんなで遊びを楽しむ。

まなび
と
学び

1年生

道徳

「はしのうえのおおかみ」(1年生)

2-(2)

主な学習活動

- ・いじわるする気持ち良さとやさしくする気持ち良さの違いを感じ取る。
- ・人(友達)にしたい親切を考えようとする。

図画工作

「ならべて ひろげて」(1年生)

(2)-A(1)ウ

主な学習活動

- ・身の回りのいろいろな材料を並べてみる。
- ・友達の並べている物とつなげてみる。
- ・並べ方を工夫して楽しむ。

事例⑦ 色水遊び

- ねらい
 - ・友達と色水を混ぜあい、いろいろな新しい色水を作り出す。
 - ・身近な物や数量などの興味や関心をもつ。
- 内容
 - ・日常生活や遊びの中で身近な物や数量に興味、関心をもつ。
 - ・友達と物や教材に興味をもってかかわったり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (1)-(1) (2)-(5)

- ・色の変わる楽しさに気付いたり、感じたりなどして楽しむ。
- ・色水に親しみ、いろいろな色を工夫してつくる。

健康 (1)-(2)

- ・健康な心と体を育てる。

言葉 (2)-(3)

- ・自分の気持ちや考えていることを言葉で表現し、相手の話を聞く。

環境 (1)-(2) (3)-(8)

- ・子どもが日常の生活に興味や関心をもってかかわり、好奇心や探究心をもつ。
- ・日常の生活の中で数量や図形、文字、標識などに関心をもつ。

人間関係 (3)-(1)

- ・友達と楽しく遊ぶ中できまりの大切さに気付く、守ろうとする。



活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
・色水遊びを友達と見つける。 ・自分の好きな色を使い、ペットボトルに絵の具、水を入れる。 ・作った色水を友達と見せ合う。 ・友達と色水遊びをし、色々な絵の具を混ぜたりしながら色水遊びを楽しむ。	・遊びに必要な用具を取り出しやすいように用意しておく。子どものごっこ遊びからペットボトル倒しを考える。 ・中身のないペットボトルがすぐに倒れてしまうわけを子どもと一緒に考える。 ・子どもがジュース作りを楽しめるように、子どもの発想や意見を尊重し、子どもだけで遊びを広げたり、深めたりできるように言葉がけをする。 ・遊びの中でルールのある楽しさに気付いていけるようにする。	ペットボトル(大・小) ペットボトル(四角・丸型) 絵の具 筆

各教科等との関連

国語

「すきなもの、なあに」(1年生)

主な学習活動

(1)-A(1)オ, (2)-B(1)ウ

友達と尋ね合い、答え合って、口頭での正確なやり取りを楽しむ。
尋ねたことをもとに書き、みんなに文章で知らせることを楽しむ。

生活

「わたしのあさがお」(1年生)

主な学習活動

(2)-(7)

あさがおの種をまく。
自分で育てたあさがおを観察する。
花の様子や特徴に気付く。
色水や押し花、絵や写真にしてみんなと楽しむ。

算数

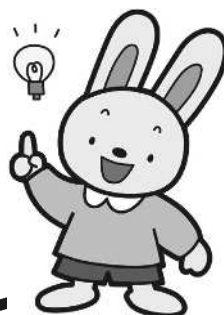
「かたちあそび」(1年生)

主な学習活動

(3)-C(1)ア

身の回りの物を使ったいろいろなものを作って楽しむ。
形の特徴で仲間わけをする。
形をうつして、絵を描き、形を構成する。

事例⑦



1年生

まなび
と
学び

体育

「遊具の遊び」(1年生)

主な学習活動

(2)-B(3)

今できる遊びを楽しむ。
工夫して遊びを楽しむ。
約束や決まりを守って仲良く遊ぶ。

図画工作

「うつして あそぼう」(1年生)

主な学習活動

(2)-ア

形や色を楽しみながら、型押しやこすり出しなどをして楽しむ。
クレヨンやパステル、絵の具を使って自分の思いを形や色で表す。
作品を飾って鑑賞する。

事例⑧ 劇遊び

- ねらい ・学級の友達と共通の目的に向かって遊びを進めていき、やり遂げた満足感を味わう。
- 内容 ・絵本の登場人物の心情を汲み取ったり共感したりし、役になりきって演じる楽しさを味わう。
- ・劇に必要なものや方法を友達と一緒に考え、作ったり工夫したりする。

5 領域との関連（どのような「まなび」があるか）

表現 (3)-(6)(8)

- ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
- ・劇を通して、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

健康 (1)-(4)

- ・劇作りの活動に、楽しんで取り組む。



言葉 (2)-(2) (3)-(9)

- ・したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- ・絵本の登場人物に興味をもち、その心情を想像する楽しさを味わう。

人間関係 (1)-(4) (2)-(8)

- ・劇遊びを楽しみながら、劇を最後までやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ・友達と楽しく活動する中で、劇に必要なものや方法について、工夫したり協力したりする。

環境 (2)-(7)

- ・劇に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

活動の流れ	教師の援助と環境の工夫	教材
・劇にしてみたい場面をごっこ遊びで遊ぶ。 ・必要な道具を作る。 ・なりたい役になって劇遊びをする。 ・友達の様子を見たり友達と一緒に劇遊びをする。	・劇にしてみたい場面でごっこ遊びができるように、場を用意する。 ・毎日台詞を言っごっこ遊びをする中で、必要な道具に気付いたら一緒に作っていく。 ・台詞は子どもたちがごっこ遊びで話していた言葉を取り入れ教師が組み立てていく。 ・一人ひとりが大事な役であり、みんなで力を合わせて頑張ることでクラスの劇が出来上がることを伝えていく。 ・友達の良いところ等を具体的に伝え、認めていけるようにする。	・「11ぴきのねこ」の絵本・ダンボール・不織布・CD・CDデッキ・綿・クレープ紙・模造紙・紙管・袋になる布・ポスターカラー・モール・すずらんテープ・セロテープ・ガムテープ・厚紙

各教科等との関連

国語

「おむすびころりん」「大きなかぶ」「くじらぐも」(1年生)

主な学習活動

(3)-C(1)ウ

- ・場面の様子を、想像を広げながら読む。
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて声に出して読む。
- ・劇やペープサートなど取り入れながら音読発表会をする。

音楽

「いろいろなおとであそぼう」(1年生)

主な学習活動

(2)-A(3)ア

- ・身の回りの物を使って、いろいろな音を出してみる。
- ・さがした音を発表し合う。

生活

「できるようになったこと」

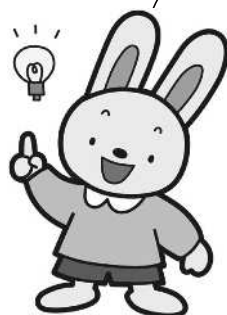
(1年生)

主な学習活動

(3)-(9)

- ・自分の一日を友達と比べ、やってみたいことを見つけ合う。
- ・この1年間で、できるようになったことを発表し合う。
- ・入学してくる1年生を迎える準備をする。

まなび
と
学び



1年生

図画工作

「こころをこめてプレゼント」(1年生)

主な学習活動

(1)-A(2)ア

- ・お世話になった人たちや新しい1年生に渡すプレゼントをつくる。
- ・材料や作り方を工夫して、楽しみながらつくる。
- ・作品をプレゼントする。

道徳

「ゆっきとやっち」(1年生)

主な学習活動

2-(3)

- ・資料から友達と仲よくし、助け合おうとする気持ちを読み取り、話し合う。

2. 幼小接続における教育課程編成・指導計画作成上の留意点 (教育課程編成上の留意点)

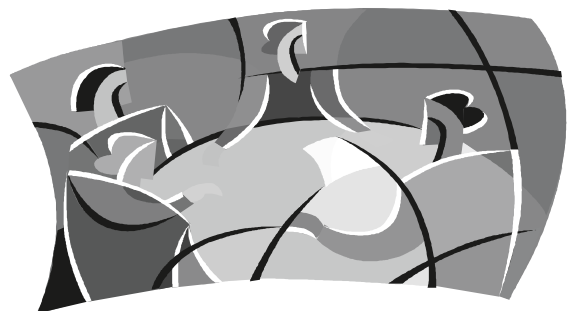
- 学びの基礎力の育成を図るため、幼児期（特に幼児期の終わり）から児童期（低学年）にかけては、「三つの自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を養うことが必要。

—— 幼児期(特に幼児期の終わり)から児童期(低学年)にかけての教育においては——
学びの基礎力の育成を図るため、「三つの自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を養うことが必要である。

—— 児童期以降の教育においては——
生涯にわたる学習基盤の形成、すなわち「学力の三つの要素」（「基礎的な知識・技能」、「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に取り組む態度」）の育成に特に意を用いなければならない。

—— 幼児期の終わりにおいては——
学びの基礎力の育成を図るため、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことが求められる。児童期（低学年）においては、学びの基礎力の育成を図るため、この時期にふさわしい「三つの自立」を養うことを含め、教育活動全体を通じて「学力の三つの要素」を培うことが求められる。

—— 幼児期から児童期にかけての教育においては——
自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、小学校1年生などの教室において、学習に集中できない、教員の話が聞けずに授業が成立しない（いわゆる「小1プロブレム」）などの課題を抱えている学校が見られる。これらの課題は、幼児期の教育の責のみに帰することも、児童期の教育の責のみに帰することもできず、両者が課題を共有し、共に手を携えて解決のための取組を進めていかなければならない。



(指導計画作成上の留意点)

① 「人とのかかわり」における留意点

— 幼児期の終わり —

社会の構成員としての自覚をもって活動を始め重要な時期であることに鑑み、幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いをつけたりしながら、クラスやグループみんなで達成感をもってやり遂げる活動を計画的に進めることが必要。

— 児童期(低学年) —

幼児期における「人とのかかわり」の指導の状況や実際の子どもの発達や学びの状況を十分把握しつつ、学校教育活動全体を通じ、与えられた課題について友達と助け合いながら、自分が果たすべき役(学習や仕事)をしっかりと果たすといった集団規範性の形成を図る活動を計画的に進めることが必要。その際、幼児期の教育の方法を取り入れていくことも考えられる。

② 「ものとのかかわり」における留意点

— 幼児期の終わり —

「思考力の芽生え」、「言葉の正しい使い方」、「豊かな感性と表現力の芽生え」(学校教育法)について、今まで学んできたことを総合化し、小学校生活に向けて学びを高めていくため、幼児の興味・関心や生活等の状況を踏まえて教職員が方向付けた課題について、発達の個人差に十分配慮しつつ、これまでの生活や体験の中で感得した法則性、言葉や文字、数量的な関係などを組み合わせて課題を解決したり、場面に応じて適切に使ったりすることについて、クラスやグループみんなで経験できる活動を計画的に進めることが必要。

— 児童期(低学年) —

幼児期における「ものとのかかわり」の指導の状況や実際の子どもの発達や学びの状況を十分把握しつつ、各教科等の指導を通じ、日常生活に必要な基礎的な国語の能力、生活に必要な数量的な関係の正しい理解や基礎的な処理能力、生活にかかわる自然事象についての実感的な理解と基礎的な能力、音や音楽のよさや面白さを感じ取りながら表現・鑑賞する能力、身近な自然物や人工の材料の形や色などから発想や構想の能力などの育成を図るための活動を計画的に進めることが必要。その際、幼児期の教育の方法を取り入れていくことも考えられる。

③ 人やものとのかかわりと言葉や表現の関係

人やものとのかかわりを支えるために重要な役割を担うのが言葉や表現である。言葉や表現は学びの基礎力を育む上で極めて重要であり、学びの基礎力が育まれる中で言葉や表現も発達していく。こうした言葉や表現の重要性を踏まえ、言葉や表現を通じて他の子どもや教職員・保護者とのやりとりを行うことで気付きや思考を深めようとする活動が展開されるよう、留意することが必要。

④ スタートカリキュラムの編成における留意点

小学校入学時に、幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムが生活科などを中心に各小学校において進められており、今後ともその取組を進めていくことが必要。スタートカリキュラムを編成する上での主な留意点は次のとおり。

- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること
- ・ 個々の児童に対応した取組であること
- ・ 学校全体での取組とすること
- ・ 保護者への適切な説明を行うこと
- ・ 授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること

⇒各学校・施設において幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿をイメージする。

○ 各幼稚園等の取組の参考となるよう、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿を参考例として示している。

(文部科学省 HP より平成 22 年 11 月 11 日)

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」参照)



計画例① 南足柄市立むつみ幼稚園指導計画（月案）

年長ばら組 11月

<ねらい>

- 友達とのかかわりを深め、互いの考えやイメージを受け止めたりしながら遊びを進める。
- 自分なりのめあてをもって遊ぶ中で、試したり工夫したりする。

<内容>

- 自分なりにめあてをもち、最後まで取り組もうとする。
- 共通の目的に向かって友達と遊びを進めていく。
- 遊びに必要なものを自分たちで考えたり、試したり工夫したりして用意する。
- 互いに考えや思いを伝えたり、受け止めたりしながら遊びを進めていく。
- 絵本や物語などの登場人物の気持ちを汲み取ったり、共感したりする。
- いろいろな歌の歌詞の意味を感じたり情景を思い浮かべたりしながら、気持ちを込めて歌う。
- 地域の人や小学生と一緒に遊んだり、いろいろなことを教えてもらったりする中で、親しみをもったり憧れの気持ちをもったりする。
- 地域の公園や図書館に出かけ、自分たちの住んでいる街の様子に関心をもったり親しみをもったりする。

日	行事	幼児の主な活動	教師の仕事
1 (日)			
2 (月)			
3 (火)	文化の日	好きな遊びをする 当番活動に取り組む（欠席報告、カメの世話） <今月の絵本> 「11 びきのねこふくろのなか」 「おぼけやしきへようこそ」 「いやいやえん」など <今月の歌> ♪かきのみ三つ ♪少年少女冒険隊	きらり発表部会
4 (水)	若松会竹馬指導（10:00）		
5 (木)	家庭教育学級（9:30） お話会（11:30）		
6 (金)			
7 (土)			
8 (日)			
9 (月)	むつみアンサンブル（11:15）		
10 (火)	園外保育（図書館） 11:30 降園		
11 (水)			
12 (木)	あゆみ文庫（11:30）		
13 (金)	避難訓練		
14 (土)			
15 (日)			
16 (月)	向田小5年生との交流（9:45）		
17 (火)	劇遊び（12:30）		
18 (水)	劇遊び（11:20） 園外保育（ちびっこ公園）		
19 (木)	劇遊び（10:00） 13:00 降園		
20 (金)	保育参観 11:30 降園		研究開発学校発表大会
21 (土)			
22 (日)			
23 (月)	勤労感謝の日		
24 (火)	歌の会（10:30）		
25 (水)			
26 (木)	11月生まれ誕生会		
27 (金)	若松会交流（13:00）		
28 (土)			
29 (日)			
30 (月)			
○環境構成	1. ○自分なりのめあてをもってじっくりと取り組めるような活動を用意する。（縫い物、磁石遊び、竹馬など） ☆自分なりのめあてに向かって取り組んでいる姿を認め励ましていく。幼児と一緒に目標を決め、最後まで取り組もうとする気持ちが持てるようにする。		
☆教師の援助	2. 3. 4. ○幼児の生活や興味・関心を捉え、ごっこ遊びのイメージをもてるようなきっかけをいろいろな方法で作っていく。（絵本、歌など） ○友達との遊びのイメージが実現しやすいようにいろいろな材料や道具を用意し、選んだり探したりできるようにする。 ☆お互いの思いや考えを出し合って、イメージを共通にしようとして認め合ったりしながら遊びを進めている姿を見守っていく。伝わりにくかったりトラブルになったりした場合には、教師が仲立ちをし、受け止めあえるきっかけとなるようにする。 ☆個々やグループの取り組みの姿から、実現したいイメージを受け止め、教師も一緒に試したり工夫したりしながら適切な材料に気付けるようにしていく。		
	5. ○幼児の興味や遊びを捉え、遊びの糧になったり、劇遊びに向かって共通にイメージを広げられるような絵本や物語を用意する。 ☆幼児のつぶやきを拾い、絵本や物語を聞いてそれぞれが思ったことや感じたことを伝え合ったり、役になりきって表現したりする中で、登場人物の気持ちを考えられるようにする。		
	6. ○季節を感じられる歌、場面が想像しやすい歌、想像して楽しい歌を用意する。 ☆歌の世界を丁寧に幼児と一緒に想像していき、一緒に楽しんでいく。また、文字に興味をもっている幼児も多いので、歌詞を模造紙に書いておき読んでも楽しめるようにしておく。		
	7. ○地域の方々と直接触れ合える機会を多くもつ。（竹馬、お話会、コーラスなど） ○事前に幼・小の教師で打ち合わせをし、お互いのねらいや流れを把握しておく。（5年生との交流） ☆ひとつの活動と一緒に楽しむ中で、地域の方々や小学生のめあてや幼児に知らせていき、親しみや憧れの気持ちにつなげられるようにする。		
	8. ○地域に出かけたり、公共の場や交通機関を利用したりする機会を作る。 ☆園や家の周りなど、自分たちの地域をもっと知る楽しさを教師も一緒に感じていく。また、地域に出かけた時の様子を保護者にも知らせていき、家庭でも地域に出かけるきっかけとなるようにしていく。		

年 長 ばら組 指 導 案

1 学級の実態

（１）友達とのかかわり

○気の合う友達と集まって、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりしながら一つの遊びに取り組む姿がいろいろな場面で見られる。相手の思いやイメージを聞いたり、受け止めて遊びを進めようとしたりする姿も出てきている。

○遊びを楽しくするために、友だちと一緒に繰り返し試したり工夫したりなど、一つのことをじっくりと追究しようとする姿が出てきている。

（２）学級集団の育ち

○10月に出かけた山登りに欠席した幼児を気にかけて、「〇〇君に山はどんなところだったか話してあげよう。」「写真も見せてあげよう。」と幼児同士で考えたり、足を痛めている幼児を気にかけて「良くなったらばら組みんなでドッジボールをしよう。」と話したりなど、学級としての意識やつながりがより強くなってきている。

（３）生活習慣への取り組み

○当番活動に自主的に取り組み、翌日の当番の幼児にも自ら「明日お当番よろしくね!」とバトンタッチをするなど、自分たちで進めようとする気持ちがうかがえる。

○時計の長い針で教師が目安を伝えると、片付けの時間や食事の時間を自分たちで意識して次の行動をするなど、見通しをもって生活をしようとする姿が多く見られる。

（４）きらりの観点（ふれあい）からみた実態

○先日、向田小5年生が幼稚園に来てくれて、鬼ごっこを一緒にしてくれたり折り紙の折り方を教えてくれたりなど、触れ合いを楽しんだ。5年生が“幼児に喜んでもらいたい”という気持ちをもってみんなで「転んじゃったときに起こしてくれたとき、優しいなあって思った。」「名前も覚えたよ。」「もっと一緒に遊びたかったから、また来てほしい。」などの言葉から、親しみを感じられたことが伝わった。

○お話会や歌の会をしてくださる方々、自治会の方々、園を拠点としたコーラスサークルの方々など地域の方々と一緒に活動する中から、幼児の遊びや活動のヒントも探るようにしてきた。地域の方々に刺激を受け、教えてもらったことを遊びに取り入れようとする姿が見られる。

2 教師の願い

（１）学級の友達と一緒に一つのことに向かったり、やり遂げたりする楽しさを味わってほしい。

12月のむつみ劇場に向かって、みんなで演出の仕方などを考える機会をもち、それぞれの考えを取り上げて認めていくことで、友達の考えを受け入れ、さらにつながりがを深まるようにしたい。

（２）身の回りにある不思議なことや美しいものなどを素直に感じ、表現してほしい。

光、音、力、など身の回りで起こる不思議なことや、身の回りに存在する美しいものにたくさん触れられるようにしていき、繰り返し試して追究したり、感じたことを言葉や動き、絵画など自分なりの方法で表現したりする場を保障していくことで、満足感や充実感を味わってほしい。

（３）自分たちで生活を組み立てていくことで自信や喜びを感じてほしい。

幼児と一緒に一日の予定や翌日の予定を組み立てたり、それに応じて準備をしたりしていく機会を作っていく、生活に見通しをもって活動できるようになってほしい。また、自分たちで進めていることを実感し、自信をもってほしい。

3 日案

<本日のねらい>

- 友達と考えを出し合ったり、イメージを伝え合ったりしながら遊びに必要な場や物を整えていく。
- 自分なりのめあてに向かって何度も試したり工夫したりして遊びに取り組む。

<内容>

- ・ ごっこ遊びやドッジボールに取り組む中で、友達のイメージや意見を受け止めて遊びを進めようとする。
- ・ むつみ劇場に向かって、友達と一緒に必要な大道具や小道具を考えたりイメージをもって作ったりする。
- ・ 影絵遊びや竹馬など、興味をもって繰り返し試したり、あきらめずに何度も挑戦したりする。

<きらりの観点から>

- ① ・ 学級や学年の友達と同じ場に集まり、やりとりをすることを喜んで遊びを楽しむ。

時間・活動	○環境構成	☆教師の援助
8:45～9:00 登園、身支度		
9:00～ 室内遊び ・ 寿司屋ごっこ ・ 影絵遊び ・ 大道具小道具作り など	<室内> ○同じ役の幼児同士道具作りが楽しめるように場を作る。 ☆身に付けることを一緒に楽しみにしたり、他にどのような物が必要か、どのような台詞を話すかなど、一緒に考えていく中で幼児の思いを引き出していく。 ○セロハン、OHP 機器を幼児が自由に使えるように用意しておく。 ☆一緒に楽しむ中で、幼児が感じている不思議さ、美しさ、発見や驚きに共感していき、さらに興味が深まるようにする。	○幼児のイメージを汲み取り、必要な道具や材料を一緒に用意していく。 ☆教師もお客さんになり、やりとりを楽しんでいく。遊びが一人の意見で進んでしまいそうな時には、個々のアイデアを受け止め周囲の幼児に知らせ、互いのアイデアに気付けるようにしていく。
9:45 片付け 集まり		
10:00～ 戸外遊び ・ 竹馬 ・ ドッジボール ・ 家ごっこ など	<園庭> ○布やままごと道具など、幼児が自分たちで取り出しやすいように整理しておく。 ☆自分たちでイメージをもって場を整えたり役を決めたりして遊びを進めている姿を受け止め、見守っていく。 ○学年のみんなで取り組む時間を作っていく。遊びの場が重ならないよう、コーンの置き場を明確にする。 ☆昨日より上手になっているところを具体的に伝えていき、さらに意欲と期待をもって取り組めるようにする。	○幼児と一緒にコートを描く。 ☆知っているルールを友達同士で伝え、遊びを進めている姿を受け止めていく。トラブルが起きたときにはその経緯を見守りながら、必要に応じて仲介に入り、互いの意見を受け止められるようにする。
※雨天時 ・ 劇遊び ・ わらべうた など		
10:45～ 片付け		
11:00～ 降園準備 火曜の予定確認		
11:30 降園		

計画例③ スタートカリキュラム

第1学年 学習予定表

子どもたちは、早く教科書を使って「算数」や「国語」の勉強をしようと、学習意欲にもえています。しかし、新しい学校生活に緊張し、家に帰るとぐったりしている子も少なくありません。

そこで、入学して1週間は、用具の片付け方、トイレの使い方など学校生活のルールについて学んだり、仲間作りの活動をしたりして、学校って楽しいと思えるようなカリキュラムを設定します。

その後、子どもたちの様子を見ながら1時間の授業の内容を工夫していくことが大切です。

4月 第1週		学習予定表			
日	6	7	8	9	10
曜日	月	火	水	木	金
時数	3	2	2	3	3
1	入学式	学級活動	学級活動	生活	行事
		用具のしまい方 あいさつ、返事 並び方	トイレの使い方 ろうかの歩き方 流しの使い方	ともだち いっぱい	登校班 編成
2		図画工作	算数	国語	体育
		すきなもののなかに パステルを使って	かずとすうじ すうじの書き方	えんぴつの持ち方 せんの練習	着がえ 並び方 遊具を使って
3				音楽	国語
				たいめんしきの歌 校歌	うれしいひ お話を聞く 見つけたものを話 す ひらがな練習

生活は、入学して出会った友達に自己紹介をし、じゃんけん握手をして友達の輪を広げる仲間作りの活動を行います。

国語の「お話読んで」では読み語り15分、音読15分、ひらがな練習15分など、1時間の授業45分を3つに区切るなど授業内容を工夫しています。

計画例④ 生活科との合科・関連的な指導

第1学年 生活科

1 教科 生活科（合科・関連的な指導：国語・音楽・図工等）

2 単元名 がっこう だいすき

3 単元目標及び合科・関連教科のねらい

生活科：①学校の友達や先生と親しくかかわったり、学校探検で学校の施設を見つけたりする活動を通して、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとしている。

②友達と楽しく遊びを工夫したり、学校探検で発見したことや感じたことを絵や文などで表現したりすることができる。

③学校には、みんなが遊んだり学習したりするための施設や決まりなどがあることや学校生活は、たくさんの人々に支えられていることに気付く。

国語：学級みんなの前で知ったことや分かったことを話すことができる。

算数：教室の数や簡単な施設の物の数などが数えられ書くことができる。

音楽：校歌を知り、楽しく歌うことができる。

図画工作：学校探検で見つけたものを絵で表すことができる。

体育：運動場にある施設で遊びやその遊び方が分かる。

道徳：気持ちのよいあいさつに心掛けて、明るく接することができる。

4 指導計画（8時間＋12時間扱い）

- ・生活科・・・8時間
- ・国語「たんけんしたよ みつけたよ」（4時間）・道徳（1時間）
- ・算数「数の学習」（1時間）・音楽「校歌を歌おう」（1時間）
- ・図画工作「せんせいあのね」（1時間）・体育「ゆうぐであそぼう」（4時間）

1 教科 生活科（合科・関連的な指導：国語・音楽・図工等）

2 単元名 はないっぱいになあれ

3 単元目標及び合科・関連教科のねらい

生活科：①自分自身で植物の種をまいたり苗を植えたりして育てることによって、それらの成長の変化に気付くことができるようにする。

②植物を育てる活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもっていることを感じ取るとともに、親しみをもって世話をすることができるようにする。

国語：聞き手に分かりやすいようにはっきりと大きな声で話すことができる。

算数：10を単位として（何十）±（何十）の計算の意味を理解できる。

図画工作：自分が育てたあさがおの生長の様子を絵に表すことができる。

4 指導計画（12時間＋8時間扱い）

- ・生活科・・・12時間
- ・国語：「みんなにしらせよう」（4時間）・算数：「大きいかず」（3時間）
- ・図画工作：「みつけたよこんなもの」（1時間）

Ⅲ 教育委員会等の支援

県内の教育委員会では、就学前教育と小学校の連携を推進していくために、異校種間の教職員が一堂に会し、研修をしたり協議をしたりする場を大切に考えた取組を行っています。さらに、子どもたちの育ちを長いスパンで捉えていこうと、中学校や高等学校をも含めた連携推進に努めている地域もあり、今回2つの地区の取組を紹介します。

例1（平塚市の事例）

幼稚園・保育所・小学校・中学校の指導の一貫性を図るため、幼・保・小・中連携の推進事業の一つとして「連携学習研究会」を実施しています。公立の幼稚園や学校を会場に、保育や授業の参観をも含めた研究会を設定することで、実際に子どもたちの姿や環境などに触れ、具体的な意見交換を通した相互理解の場を提供したいと考えています。発足当初は、幼・小・中が対象でしたが、就学前教育との連携の必要性について意識が高まり、平成10年度より保育所も交えた現在の形態となっています。地域の子どもたちを育てていくという視点から、公私立の枠にとらわれることなく、参加を呼び掛けています。

例2（伊勢原市の事例）

平成5年度の「伊勢原市教育センター」開設に際し、各校種の職員等から、「幼稚園・保育所・小学校・中学校の連絡協議会」開設の要望を受け「伊勢原市教育センター」が主管課となり「連絡協議会」が設置されて以来、地域の教育力の向上に努めています。平成6年度には地域の高等学校、養護学校をも含めた教育機関等が一堂に会して、各年齢における生活実態や様子、交流の場を話し合うこととなり、現在に至っています。今後も引き続き人間性の育成という方向で、基本的な指導姿勢の共有化を図り、系統的に一貫した教育を進めていくために、異校種間の職員の相互理解を深めていくことを大切にしたいと考えています。



実践例① 平塚市

公・私立幼稚園・保育所と小学校

★幼・保・小・中連携学習研究会の様子

異校種間の教職員の相互理解を深める場として、市内公私立幼稚園及び保育所、小・中学校、市内にある県立学校の教職員を対象に、公立幼稚園または小学校を会場に毎年開催している。

平成 21 年度は、平成 22 年 1 月 27 日（水）13 時より港幼稚園を会場に実施。

午後の保育や港小学校の児童との交流（冬の遊び）の様子を公開後、全体会で「幼小連携の取組と課題について」というテーマのもと、推進体制づくりや教職員間の交流等、これまでの港幼稚園と港小学校の具体的な取組について報告。

その後、異校種の教職員で構成された 10 人程の小グループに分かれ、連携推進や子どもたちの様子について協議を行った。それぞれの立場から、思いや取組の様子などが熱く語られ、活発な意見交換がなされ、互いの思いや考えを知るよい機会となっていた。どのグループからも、継続的に取り組んでいくための手立てについて、それぞれの園や学校の地域性を生かした方法で取り組みたい、まず職員間のつながりを強めていきたい等建設的な意見が多く出された。



↑ 園舎内全体を参観



← 全体会の様子



＜グループ協議の様子＞

← ホールにて協議するグループ

保育室にて協議するグループ→



★支援のポイント

- ・園や学校を会場とすることで、それぞれの施設や環境構成等を知る機会とする。
- ・会場を固定化せず、その年ごとに依頼することで、各校（園）の連携推進の後押しをしていく。
- ・当日の日程や内容等、園や学校の独自性を尊重する中で準備を進め、各校の継続的な取組につなげていく。

実践例② 伊勢原市 各校の継続的な取組につなげていく 私立幼稚園と小中高等学校

★地域教育機関等連絡協議会の様子

子どもたちの知・徳・体のバランスある成長のために、市内在住の幼児・児童・生徒の発達段階に伴う生活実態についての情報交換を行い、各教育機関等の連携とそれらにかかわる職員及び幼児・園児・児童・生徒の交流を図ろうと、年4回開催している。市内にある全幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校、県立養護学校を4つのブロックに編成し、それぞれに「テーマに沿った活動」を研究している。

【ブロック編成とテーマ】

	学校数		市役所	テーマ
	幼・保	小・中・高・県		
A	4	5	保育課	おはようから始めるコミュニケーション ～具体的な動きを～
B	5	5	障害福祉課	成瀬公民館祭りに参加しよう ～子育て支援にできること～
C	6	6	指導室	幼・保・小・中・高の情報交換 ～入園・入学までに身につけておきたい事を通して～
D	6	3	学校教育課 児童相談センター	深めよう 広げよう 縦のつながり 横の交流

[第1回]代表者、並びに実務担当者会 青少年センター集会室

ブロックごとに現状について情報交換し、テーマ設定と計画の立案をする。

[第2回]実務担当者会 ブロックごとに

A：異校種の交流場面や挨拶の実情について話し合う。あいさつポスターを交換。

B：子育て支援の取組として、公民館祭りに参加。あいさつ運動としてポスター作成とチラシの配布、のぼり旗の巡回を実施。

C：就学前から小1までのトイレ指導の実情とトイレの型式について情報交換。

D：高等学校の授業参観。幼い段階からの表現力育成や家庭支援の必要性について話し合う。

[第3回]実務担当者会 伊勢原市立図書館AVホール

講演「幼稚園、小学校をつなぐ教育内容について

～七沢幼稚園から七沢希望の丘初等学校設立を通して～

講師 内田学園理事長・七沢幼稚園園長・七沢希望の丘初等学校校長 内田文江氏

[第4回]実務担当者会 伊勢原市立図書館AVホール

★支援のポイント

・地域内の全教育機関を対象に協議会を実施する・中学校区をベースとしたブロック編成をすることで、地域性を生かす・グループごとに自主的にテーマを設定することで、それぞれの実情に応じた研究を進めることができる・学校を会場とし、施設見学を取り入れることで、異校種の様子を知るよい機会とする。

Ⅳ 幼稚園と小学校と家庭や地域をつなぐ(資料)

幼稚園の教育は、そのほとんどが家庭と幼稚園とで行われるため、両者が連携・協力して幼児の成長を援助していく必要があります。幼児は、家庭での体験をもとに、幼稚園での友達や教師とのかかわりを通してまなびを深めていき、幼稚園での体験をもとに、家族やさらに地域での活動をより豊かにしていきます。

また、小学校期は、幼児期のまなびをもとにさらに、時間的、空間的に広がりをもった学びが展開されていきます。そのためには、学校での教育について家庭・地域への理解を図ること、家庭・地域での様子について家庭・地域からの声に耳を傾けること、そして、学校・家庭・地域が共に連携・協力して共通理解を図りながら子どもを育てていくことが必要になります。

○相互の理解を図る

幼稚園や小学校の教育方針について正しく理解してもらうために、家庭や地域に対して広報する場を設けていく必要があります。

家庭に対しては、機会をとらえて、幼稚園や小学校での遊びや学習の様子、頑張っている様子、成長の様子を具体的に伝え、安心感とともに信頼感をもってもらえるようにしていきます。

地域に対しては、幼稚園や小学校が求めていることやできることを伝え合い、相互の理解を図っていきます。

○声を聴く

家庭や地域の声に耳を傾け、思いや期待を的確に把握することが大切です。家庭や地域の声には、様々なものもあるかもしれませんが、声を聴くことで、話し合うことや思いを伝え合うことができ、連携を深めていく基盤がつけられていきます。

○共に育てる

幼稚園と小学校、家庭、地域が、相互に理解し合い、共通した認識や願いをもって子どもたちの指導に当たることは、どの場面においても同じ対応や指導を受けることができ、子どもの成長にとって大切なことです。



＜「幼稚園幼児指導要録の改善について（通知）」文部科学省 平成 21 年 1 月 28 日から＞

別添資料 1
(様式の参考例)

幼稚園幼児指導要録（学籍に関する記録）

区分 \ 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
学 級				
整理番号				

幼 児	ふりがな 氏 名				性 別	
	平成 年 月 日生					
	現住所					
保護者	ふりがな 氏 名					
	現住所					
入 園	平成 年 月 日	入園前の 状 況				
転入園	平成 年 月 日					
転・退園	平成 年 月 日	進学先等				
修 了	平成 年 月 日					
幼稚園名 及び所在地						
年度及び入園（転入園） ・進級時の幼児の年齢		平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	
園 長 氏名 印						
学級担任者 氏名 印						

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
(学年の重点)		(学年の重点)		(学年の重点)		(学年の重点)	
氏名		指導の重点等					
性別		(個人の重点)		(個人の重点)		(個人の重点)	
ねらい (発達を捉える視点)							
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かして、進んで運動しようとする。 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	指導上の参考となる事項					
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもち、 社会生活における健全な習慣や態度を身に付ける。						
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分がかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に盛り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、触ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。						
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。						
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。						
出欠状況	年度 年度 年度 年度 教育日数 出席日数	備考					

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入

個人の重点：一年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入

指導上の参考となる事項：

(1) 次の事項について記入すること。

① 1 年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を随時記入すること。

- 幼稚園教育要領第 2 章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向うが著しいと思われるもの。
- その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって選べるものではないことに留意すること。

- 幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。

② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

(2) 幼児の健康の状況等指導上特に留意する必要がある場合等について記入すること。

＜神奈川県教育委員会作成＞

支援シートⅠ これまでの支援これからの支援

ふりがな 氏 名	所 属 機 関	記入日	相談メンバー
	↓		

*記入者には○印をつける

	項 目	内 容
これまでの取組	所 属 機 関	
	家 庭 生 活	
	余暇・地域生活	
	健康・安全・相談	

これまでの取組の評価	
------------	--

これからの計画	これからの方針	
	所 属 機 関	
	家 庭 生 活	
	余暇・地域生活 卒業後の生活	
	健康・安全・相談	

＜神奈川県教育委員会作成＞

支援シートⅡ 支援の内容と役割分担

ふりがな 氏 名		所属機関	(学年)
記入日		相談メンバー	
見直し日		相談メンバー	

*記入者には○印をつける

課 題 または ニーズ	
-------------------	--

項目	機 関	担当者	支援の内容	見直し 予定日	見直し 評 価
所属機関					
家庭生活					
余暇・地域生活					
健康・安全・相談					

3. 幼稚園・保育所等と小学校をつなぐシート

小学校に入学する際に、幼稚園・保育所と小学校との段差をなめらかにして子どもたちがスムーズに小学校生活を送ることができるようにすることが大切です。

そこで、幼稚園・保育所と小学校の先生方が、懇談会・研修・連絡会等で話し合いをする時に、『幼稚園・保育所と小学校をつなぐシート』を活用して、相互の教育について理解し合しましょう。

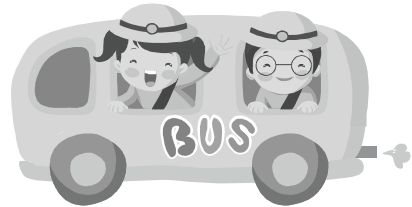
＊幼稚園・保育所での生活の流れは、どのようなことに気を付けていたのかな？

＊幼稚園・保育所ではどのような飼育栽培をしていたのだろうか？

活用の意義

幼稚園・保育所等にとっては・・・

シートを活用して懇談会等で話し合うことを通して、園での活動や体験がどのように小学校につながっていくのかを知ることができる。



小学校にとっては

それぞれの園の活動を知ることによって、当初の1年生へのかかわり方や、1年生が自信をもって取り組むことができるようなヒントを得ることができる。

各教科が園での活動や体験とどのようにつながっているのかを知ることができる。「学びの連続性」という視点からも考えていくことができる。



活用方法

1. 幼稚園・保育所等の先生方が必要事項を予めシートに記入する。
2. 懇談会等の際にシートを小学校が確認し、必要に応じて様子を詳しく聞く。
3. 子どもたちにとってよりよい連携の方法について話し合う。

ボタンタッチシート（例）

幼稚園・保育所等の 1日の流れ		記入 日 月 年						降園時刻	
								月曜日 : 火曜日 : 水曜日 : 木曜日 : 金曜日 : 土曜日 :	
		例 9:00 9:30 10:00 12:00 13:00 13:40 14:00							
		登園 集まり 設定活動 昼食 自由な活動 集まり 降園							
昼食		弁当 ・ 給食（園内の給食室で調理 業者委託 その他）							
遊 び	人気のある遊び	○室内（ ） ○戸外（ ）							
	伝承遊び	○種類→ お手玉・メンコ・あやとり・竹馬・こま・その他（ ）							
	水遊び（プール）	□実施→時期（ 月～ 月） 内容（ ） □実施せず							
運 動	ドッジボール	□実施→円形・四角 ボールの種類→ドッジボール・その他（ ） □実施せず							
	なわとび	□実施→短縄・長縄・その他（ ） □実施せず							
	鉄棒	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導 ○内容（ ）							
	跳び箱	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導 ○内容（ ）							
活 動	飼育	○飼育動物（ ） ○園児の関わり（ ）							
	栽培	○時期・栽培物（ ）							
	当番・係	○内容（ ）							
	掃除	○経験→ほうき・ちりとり・そうきんがけ							
文 字	自分の名前	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導・その他（ ）							
	ひらがな	○指導形態→一斉指導・必要に応じて個別に指導・その他（ ）							
歌	よく歌う歌	題名「 」 「 」 「 」 「 」 「 」							
	手遊び歌	題名「 」 「 」 「 」 「 」 「 」							
	楽器の使用	鍵盤ハーモニカ・タンバリン・カスタネット・すず・トライアングル・その他（ ）							
本	読み聞かせ	□実施 どんな時に（ ） □実施せず							
	絵本を見る機会	□ある どんな時に（ ） □ない							
	人気のある絵本	題名「 」 「 」 「 」 「 」 「 」							
道 具	のり	容器・チューブ・スティックのり お手ふき用意→あり・なし のり台紙→使用・使用せず							
	はさみ	使用・使用せず							
	絵の具	□使用→チューブ・カップに溶かして全体で使用・固形絵の具 □使用せず							
異校種間等交流		幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・その他（ ）							
園の特色ある活動									

〈平成18年度川崎市総合教育センター幼児教育研究会議報告資料 参考〉

4. 地域とつなぐシート

家庭や地域とのかかわりについて、情報を一箇所に収集し、園や学校の財産として、ネットワークのシートを作成すると、いつでも、誰でも活用することができる。また、データは新しく追加、訂正、削除できるようにシート型にしておくとう活用がしやすい。

(1) シート様式例

○例 1

【ネットワークシート】 (例)		○○幼稚園
内容	『サツマイモ掘り』	
協力者	○○老人会	連絡先 (○○) ○○○○(自宅)
協力の内容	・ 期間 10月～11月 ・ 内容 掘り方の説明と指導	
★連携のポイント サツマイモの苗植えから収穫までの年間計画を事前に作成し、協力者に事前に伝えておく。		

○○小学校 ネットワークシート		No. 3																
名称	○ ○ ク ラ ブ	連絡先 TEL (○○○) ○○○-○○○○ FAX (○○○) ○○○-○○○○																
代表者	神 奈 川 花 子	配慮すること ・ 連絡は、FAXを中心に ・ 金曜日は不可																
連携できること ・ 読み聞かせのボランティア ・ 絵本や紙芝居、人形劇などが可		今までの実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">月日</th> <th style="width: 90%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>1年生「朝の会」で人形劇実施</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>2年生「学年集会」で読み聞かせ</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	月日	内 容	5月	1年生「朝の会」で人形劇実施	6月	2年生「学年集会」で読み聞かせ										
月日	内 容																	
5月	1年生「朝の会」で人形劇実施																	
6月	2年生「学年集会」で読み聞かせ																	

(2) ネットワーク先と連携できる内容

【例】

- 地域の高齢者の会・・・地域の行事や昔の遊び など
- 読書のボランティア団体・・・読み聞かせ など
- 地域の農業を営む方・・・作物の育て方
- 地域の文化団体・・・団体で行っている文化活動
 - 囲碁クラブ
 - 将棋クラブ
 - ゲートボールクラブ
 - パターゴルフクラブ
 - コーラスグループ
 - 器楽奏のグループ etc.
- 地域のスポーツクラブ・・・団体で行っているスポーツ
 - サッカークラブ
 - 野球クラブ
 - バスケットボールクラブ etc.
- 地域の商店を営む方・・・お店の仕事を知る
- 地域の工場や会社・・・仕事を知る

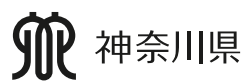
(3) シートの活用方法や注意事項

- 情報がたまっていくようにファイリングする。
- 園や学校においてすべての職員が閲覧できるように場所を固定する。
- いつでも記入できるように用紙を準備しておく。
- 園や学校で既に連携している職員に情報を聞いてから連絡する。
- 古くなった情報は、年度ごとに適切に破棄する。
- 個人情報保護に十分配慮し、シートの取扱いには細心の注意を払う。



まなびと学びをつなぐ
小学校と就学前教育の連携 指導資料集

発行年月日	平成 23 年 3 月
発 行	神奈川県教育委員会
編集責任者	子ども教育支援課長 笠原 陽子
印 刷 所	有限会社 青史堂印刷



教育委員会教育局支援教育部子ども教育支援課
横浜市中区日本大通33 〒231-8509 電話(045)-210-1111(代表)

